

ふるさと再発見 第45回

Re:discovery Omihachiman

たてももの探訪⑥

旧中川煉瓦製造所

ホフマン窯

日本の西洋化を支えてきた近代化遺産は近年注目を集めています。本市にもそんな近代化遺産があります。それが今回紹介する旧中川煉瓦製造所ホフマン窯です。

明治16（1884）年に宇津呂村で燃料商を営んでいた中川長九郎が湖東組を創立して煉瓦焼成を始め、明治40（1907）年頃には中川煉瓦工場と改称します。大正9（1902）年前後には工場内にホフマン窯が建設され、昭和42年頃まで煉瓦を製造しました。しかし、煉瓦需要が縮小し、昭和45（1970）年に工場は廃業しました。旧中川煉瓦製造所は平成17（2005）年に国の登録有形文化財に登録されました。現存する旧中川煉



旧中川煉瓦製造所ホフマン窯

瓦製造所は、ホフマン窯、事務所棟、成形機を収める機械所、縄縫工場の4か所となっています。ホフマン窯はドイツ人技師・ホフマンが考案した煉瓦窯です。窯は円形や楕円形など環状の形をしていて、窯の内部には煉瓦を焼く小さな区画があり、生の

煉瓦が積み重ねられます。上部からコークスを入れて一つの区画で煉瓦が焼きあがると、次の区画に火を移して焼成を繰り返します。煉瓦が焼かれるたびに区画を環状に移動することで連続した工程が行われ、煉瓦の大量生産を可能にするものでした。このようなホフマン窯は現在国内では本市の他に栃木県野木町、埼玉県深谷市、京都府舞鶴市の4か所しか残されておらず、当時の煉瓦作成技術を今に残す貴重な資料となっています。旧中川煉瓦製造所ホフマン窯は長辺約55メートル、短辺約14メートルの南北に細長い長方形の平面形で、内部に口の字型平面の窯、煉瓦積みみの壁、上部にアーチ状の覆いがあります。外側に控え壁が2〜6メートル間隔で配されています。上面は陸屋根で、粉炭投入用の小穴が開けられています。中央やや南寄りに高さ約33メートルの煙突を立てています。当初は窯全体を覆って木造の上屋がありましたが、現在は失われています。旧中川煉瓦製造所は煉瓦の積出し港として八幡堀に接しており、八幡堀の



稼働していた頃の中川煉瓦工場（中川宗孟さん提供）

景観を構成する一つになっています。旧中川煉瓦製造所は当時の煉瓦の製造工程を追うことができるもので、煉瓦の製造に近江八幡の地元の産業である八幡瓦製造技術に先端技術のホフマン窯が組み合わさるという特徴があります。

旧中川煉瓦製造所の建物はかなり老朽化しているため、ホフマン窯内部の見学は常時難しい状態ですが、外観は見る事ができます。近江八幡には煉瓦塀など多く見ることができ、八幡山の麓にそびえたつホフマン窯の煙突も併せて、明治、大正時代の近江八幡を今に残しています。

広報おうみはちまんは、各自治会を通じてお届けします。また、各学区コミュニティセンターや図書館などの公共施設、郵便局、金融機関、セブン-イレブン・ファミリーマート各店舗などに置いているほか、市ホームページやマチイロ、マイ広報紙などでもご覧いただけます。

人口と世帯 令和4年8月1日現在 ()は前月比

総数	81,961人	(+ 37)
男	40,279人	(+ 36)
女	41,682人	(+ 1)
世帯	34,982世帯	(+ 31)

※外国人住民(42か国・地域/1,731人)を含みます。

Facebook



YouTube



Instagram



マチイロ



マイ広報紙



LINE

